

平成 20 年 10 月－平成 21 年 9 月期 JPS 領域 2 第 2 回役員会議 議事録

日時： 2009 年 3 月 27 日（金）18：00－20：00

場所： 立教学院池袋キャンパス（日本物理学会 第 64 回年次大会会場）S P 会場

出席者：

田中代表（議長）、居田副代表、石原前代表、比村、渡邊、樋田、吉村、石井、利根川、古川
ビーム物理領域 世話人（プラズマ担当）森芳孝氏（2008.10－2009.9）、神門正城氏（2007.10
－2008.9）

議題：

（1）ビーム物理領域との合同セッション／シンポジウム（年会）について

森氏、神門氏から、ビーム物理領域についての説明があった。

領域 2 としては、積極的に進めれば良いと考える。合同セッションは、定例化することを明日の
運営会議で承認をとる予定。

事前の意思疎通が必須である。秋季大会の際に、双方のプログラム委員の間である程度トピック
ス等について打ち合わせや情報交換をする等の活動を開始する。10 月頭が募集要項の締め切りな
ので、時間があまりないことに注意する。

自動的にトリガーが掛かる方法は？ 合同セッションへの申し込み案内は、常に講演募集に載っ
ている。セッションリーダー的な人から、積極的な誘いを掛けてもらわなければ、集まりにくい
のではないかと？

プログラム編成時に、合同セッションが適切な講演だと思われる場合には、合同セッションでの
講演を個別に依頼してきた。

（2）「プラズマ科学シンポジウム将来構想検討委員会議事メモ」について

田中代表から、上記議事メモに沿って経緯の説明があった。

旅費を得るため、核融合研の分野間連携ネットワーク構築活動に応募する。2 年に 1 回開催を 3
学会で持ち回る 6 年間、継続的に資金を得る枠組みが必要だ。プラズマ科学シンポジウムの前回
開催時の黒字分から、旅費を支出できないかと？

国際化（アジア）を進めては？

査読付き論文集、あるいは逆に物理学会予稿集のような簡易なものにしては？

プラズマプロセッシングシンポジウムとの合同でやってきたが、それを考え直しては（「プラズマ科
学」をやるのだ）？

1 年単位で役員（担当）が交代するのは、継続性の観点で難しさがある。明日の運営会議では、
上記の連携が開始されていること、物理学会領域委員会規則では役員は 1 回のみ再任可であるこ
とをリマインドする

2 名の運営委員は、3 年任期の各年グループから 1 名ずつ選ぶ。

利根川（暫定：次期世話人から選び交代）、古川。

（3）「レーザー研からの要望に関して」今後同様の要望があったときの対処法

役員会では、基本的には運営会議に掛ける方向で、文書整備等を促す。

要望を出した所長／センター長に運営会議で説明してもらう。

運営会議に掛ける時間がない場合には、役員会で決定し、事後承諾とする権限がある。

(4) 次期役員候補者について

副代表候補： 菊池満氏（原子力機構）

世話人候補（前3人が優先）： 荒巻氏（名大）、重森氏（阪大）、草野さんからの推薦者、藤堂（N I F S）、林（佐賀大）、梶田（名大）、蓮尾（京大）、村上（阪大）、伊藤（N I F S）、石澤（N I F S）

(5) 領域2 ウェブの充実法について

次期世話人から物理学会のサーバにアクセスできるウェブ担当を追加する。

以上

2009年3月27日

領域2 役員会議 幹事 古川勝

* 参考（音声ファイルあり： 090327 領域2 第2回役員会.mp3）